

東アジアの「平和」に向けた 日本と中国の善隣関係の行方

読売新聞編集委員 飯塚恵子

フロンティア分科会・平和部会

2012年3月16日

▼中国とどう友好的な善隣関係を築き、深めるか

＜大きな要素：相互をどう「認識」するか＞

- ・安全保障
- ・歴史認識

▼安全保障

【日本の現状】

- ・「脅威」を公式に特定していない
- ・今後の潜在的脅威として、中国は北朝鮮より大きな懸念材料
- ・日米同盟を基軸に対処

【日本の対中認識】

- ・急速な軍備拡張、国防費急増。特に海軍、空軍
- ・領土、領域、海洋権益で自己主張強め、より遠洋へ進出
- ・軍拡の真の意図や目標、指導部と軍の連携の全容は把握しきれず
- ・海上法執行機関が権限競争

(軍のほかに5龍:海関、海警、海監、海巡、魚政)

【中国の現状】

- ・国防費急増。次世代戦闘機、空母、潜水艦
- ・台湾の分離独立阻止を最重視
- ・東シナ海、尖閣諸島も「核心的利益」
- ・南西諸島周辺などでも示威訓練

【中国の対日認識】

- ・日米同盟が中国を牽制
- ・自衛隊は活動範囲・権限を拡大、軍事活動への制約を緩和
(集団的自衛権、憲法見直しなど)

▼歴史認識

【日本の対中認識】

- ・戦争体験を知る世代が終わっても、「教育」で認識が強化される
- ・戦後日本は平和に努力しているが中国が理解せず
- ・中国の発展への日本の経済協力を理解しない

【中国の対日認識】

- ・日清戦争、満州侵略、日中戦争の記憶が物差しの一つ
- ・中国は悪くてずるい日本の犠牲
- ・日本は償うべきなのに償わない

▼2025年(どうあるべきか、あるべきでないか)

- ・相互の認識のギャップを埋める。
- ・日本が非のある点は率直に認め、中国もそれを正當に評価する
- ・日中歴史共同研究などのさらなる推進
- ・あってほしくないこと: 日米 vs 中の「新冷戦」
- ・メディアの役割(マス／ソーシャル)

▼2050年(どうあってほしいか)

- ・日中の政府レベル、国民レベルに相互信頼が浸透し、安定、繁栄
- ・アジア周辺国も米国も安堵
- ・経済協力関係も発展
- ・あってほしくないこと: 日米 vs 中の「新冷戦」激化

▼補足：2025、50年の日本のメディアの存在と役割

- ・25年はまだ「新聞」は存在。2050年は？

- ・ジャーナリズムとは：

社会のできごとを正しく把握し、事実を届け、課題を提起

【マスメディア】

ジャーナリズム機能。最低限の社会の共通認識を自律的に形成

【ソーシャルメディア】

パーソナルなやり取りが携帯デバイス

- ・25年、50年への課題。新聞、テレビが、どうソーシャルのユーザーに理解され、期待される存在になれるか

- ・日中の相互理解に寄与する役割あり

<了>